

クリエイティブな映像制作で インターネットの安心安全を守る！

1 目的・概要

現代社会において、インターネットは老若男女を問わず生活に欠かせないツールとなっています。しかし、その普及とともに、詐欺、特有のトラブル、そしてサイバー犯罪の被害が年々増加している現状があります。この問題に対処するため、私たちのプロジェクトは「インターネット上のリスクから人々の安心安全を守る」ことを使命として掲げました。この使命を達成するため、私たちは映像



作品によって、インターネット利用者が直面するトラブルを防ぐための知識と意識を高める活動に取り組みました。映像制作は、情報提供にとどまらず、視聴者がオンライン上の問題を個人的な問題として捉えるきっかけを提供することを目指しています。そのために、視聴者の興味を引きつけ、深い考察を促すための映像技術を活用した創造的なアプローチを採用しています。さらに、これらの映像をできるだけ多くの人々に届けることで、インターネット上のリスクへの意識を高めることが重要だと考えています。このために、地域社会との連携や、影響力のあるコンテストへの参加など、創造性と社会貢献の両輪でインターネットの安全利用の啓発活動を行ってきました。

Annual Schedule

2023年	4月	チームの形成と方向性の設定、実行計画の策定
	5月	動画の試作、広報活動上のプラットフォーム策定
	6-8月	動画作成・啓発イベントの実施・外部組織との連携
	9月	夏休み中の活動内容の共有・動画フェスタ、京都市へ提出予定の動画案作成
	10月	動画制作・イベント企画、デジタルサイネージに提出する動画立案、京都市へ提出予定のbook内容立案
	11月	YouTube 広告調査・デジタルサイネージ提出用の動画作成・京都市bookへ提出する動画作成
	12月	動画作成・アンケート実施
2024年	1月	コンテストへ出展

2 成果達成度

映像制作

春学期には、1つのシリーズ動画と4つの短編動画を計5本の動画を制作しました。秋学期にはさらに5本の動画を撮影し、ACジャパンのコンテストでは複数の動画を提出しました。これらの動画はイベントの啓発やPRのために活用しました。動画制作や啓発イベント、PR計画を進める中で、インターネット上のトラブルに関する知識の重要性を痛感しました。このため、京都府警主催のアンチサイバークライムカフェへの参加や、京都府警察署への訪問を通じて、他の学生の意見を聞き、事例を学びました。この経験から得た情報を基に、闇バイトをテーマにしたサイネージ動画の制作を企画しました。また、SNSトラブルを啓発する動画では、「こんな簡単な仕事で儲かる」という誘惑的なメッセージと、それに伴うリスクを強調する編集を心掛けました。具体的な動画作品としては、「悲劇の3万円」など、軽快な雰囲気からシリアスな展開に移行する手法を取り入れ、闇バイトの危険性を強調しました。また、「京都市防犯ハンドブック PR 動画 1分 Ver.」では、恋愛ドラマ風の序盤から、ハンドブックの内容を真剣に伝える後半へと移行しました。警察コンペ用の動画では、ユーモラスな内容で視聴者の注意を引きつけつつ、パスワードの設定と管理の重要性を逆説的に伝えるアプローチを取りました。



劇の3万円」など、軽快な雰囲気からシリアスな展開に移行する手法を取り入れ、闇バイトの危険性を強調しました。また、「京都市防犯ハンドブック PR 動画 1分 Ver.」では、恋愛ドラマ風の序盤から、ハンドブックの内容を真剣に伝える後半へと移行しました。警察コンペ用の動画では、ユーモラスな内容で視聴者の注意を引きつけつつ、パスワードの設定と管理の重要性を逆説的に伝えるアプローチを取りました。

広報・啓発活動

SNSでの情報発信を通じて認知度を高め、毎日7万人が訪れる地下鉄四条駅のデジタルサイネージで放映しただけでなく、アンケートを行い効果測定を通して、実際の被害やイメージの調査、動画の感想やアドバイスをもらい、次の啓発活動に活かしました。また、活動内容を紹介するオリジナルウェブサイトを立ち上げ、室町児童館での対面式イベントを通じて小学生に直接啓発を行いました。



京都市や京都府警に活動の場を頂き、制作した啓発動画は、地域コミュニティの関わりを深めるとともに、リアルなトラブル事例を反映しました。海外向けに展開したYouTube広告では様々な

国の方々に見てもらうことを目的とし、多くの人に受け入れられやすくするために「特定の国籍の属性がでないようなイラストで表現する」という工夫をしました。またACジャパン大会への動画提出により全国的な注目を集めることもできました。これら一連の活動により、インターネットの安全利用を啓蒙し、プロジェクトの影響力を広げることができました。

3 プロジェクトを通じて

今年のプロジェクトでは、インターネット犯罪防止に向けた映像制作を通じて学びと成長が著しい一年でした。ゼロからの動画制作といった活動で始まり、京都市や京都府警察へと活動の場が発展しました。これらの活動や Google の社員様へのインタビューを通して、インターネット犯罪のリアリティと身近さを痛感し、私たち自身のネット利用に対する意識が大きく変わりました。チームで協力して様々な動画を制作する過程は、単に技術を磨くだけではなく創造性を発揮する場となりました。児童館との啓発イベントなど、年の離れた子供に伝わるアイデアを形にしていく過程は、時に難しくもありましたが多様な背景をもつメンバーとの議論は非常に刺激的でした。動画制作の各フェーズで、企画・撮影・編集まで、様々な課題に直面しながらも、それを乗り越えることができました。特に海外の YouTube 広告を使用したプロジェクトや、京都市の詐欺対策動画の制作は、社会的な影響を考慮しながら創作する経験となりました。こうした活動を通じて、私たちは単なる学生ではなく、社会に貢献するクリエイターとしての自覚を持つようになりました。この一年で得た学びと経験は、今後の人生においては計り知れない価値があると感じています。



編集後記

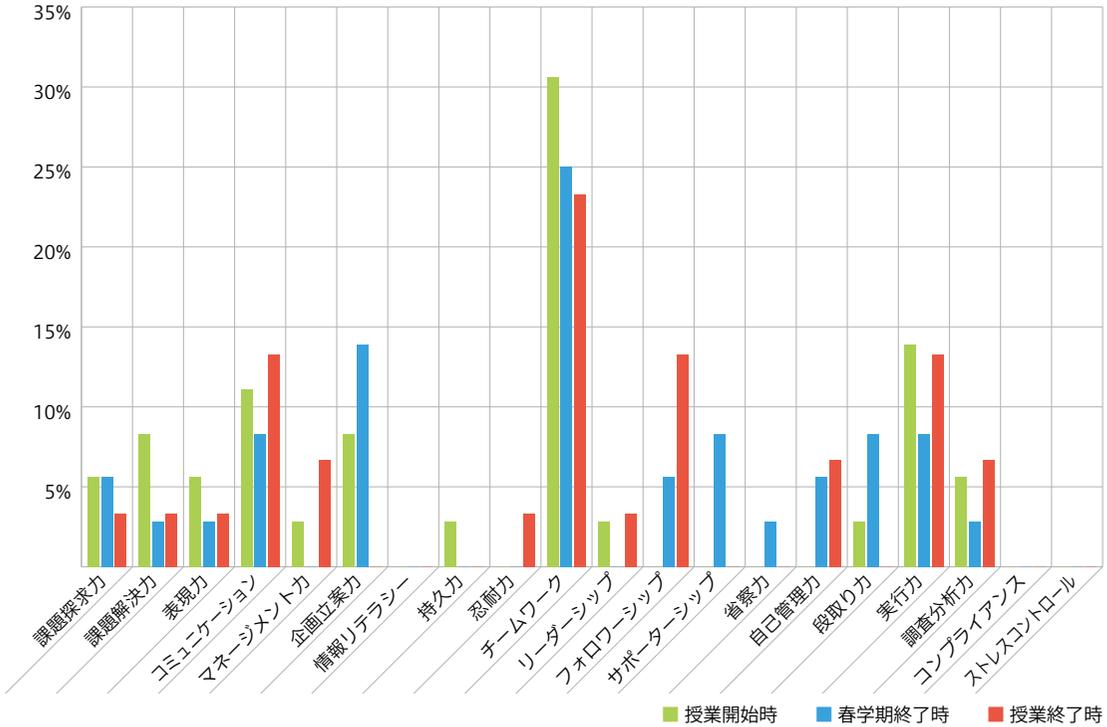
プロジェクトを振り返ると、私たちはまるでデジタル世界のヒーローのようでした。カメラを武器にサイバー犯罪と戦い、京都の街を守るために公共機関とタッグを組む。おまけに、SNS での発信でフォロワーを増やし、地下鉄のデジタルサイネージをジャック。まさに、ヒーロー映画の撮影現場のようでした。ただし、本物のヒーローと違い、私たちはコーヒーとお菓子でエネルギー補給。この活動がどんなスーパーパワーを発揮するか、乞うご期待！
「次回、今日から君もサイバーヒーロー!! 来年も見てくださいよな！」

プロジェクトメンバー

朝倉 颯人(文2) 土井 優佳(法3) 神田 知美(法3) 古木 響子(経済3) 曾谷 勇斗(経済3)
高田 りの(文化情報2) 朴 柱炫(社会4) 高木 杏菜(社会2) 矢川 日菜(社会2)
住友 美月(グローバル地域文化3)

プロジェクト活動 アンケート集計結果

Q1. チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んでください。



Q2. プロジェクト活動を通じて実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んでください。

